

核兵器・冷戦・・・ オバマ大統領へとなぐ授業

島根県公立中学校教員

「冷戦」が終わった。しかし、アメリカー
国主義への国際的な批判は新たな対立を生ん
でいる。中学生にとって、冷戦を学ぶことは
将来を予測し、国家間の思惑や関係を学ぶ意
味で重要である。近現代史重視は従前からい
われているが、2012年度から完全実施される
新学習指導要領ではこの方向がより明確に示
され、中学生が現代社会の理解を深める指導
が求められる。新学習指導要領によると「国
際連合の発足」「米ソ両陣営の対立」「アジア
諸国の独立」「朝鮮戦争」「その後の平和共存
の動き」が内容としてあげられているが、こ
れらを並列的に扱うことは生徒の理解を平板
的にし、思考する学習へとは繋がりにくい。
そこで授業者の教材観に基づき、構造化する
ことが求められる。

核兵器から見る冷戦の授業

2009年4月5日 オバマ米大統領がチェコ
のプラハで行った演説「米国は、核兵器国と
して、そして核兵器を使ったことがある唯一
の核兵器国として、行動する道義的責任があ
る。(略)米国は指導的役割を果たす。」「冷
戦思考に終止符を打つために…」「何千もの
核兵器は最も危険な冷戦の遺物」。オバマ大
統領はこのプラハ演説の評価もあってノーベ
ル平和賞の受賞が決まった。核兵器は冷戦の
時代を象徴する兵器である。「冷戦」を学習

することは、まさに今の社会の課題を学ぶこ
とである。冷戦の中で起きた民族を分断する
戦争を理解するとともに、生徒が、わが国が
唯一の被爆国として、核兵器の全廃を求める
意志を形成することは重要である。

ステップ1 課題をつかむ

プラハでのオバマ大統領の演説の意味

- ・ A～Fの写真について、何を示しているか
考える。

A：オバマ米大統領プラハ演説

B：広島被爆地



「中学生の歴史 初訂版」p.212

C：長崎被爆地

3 度目の被爆 D：第五福竜丸

E：原爆マグロ

F：ゴジラの映画化



「中学生の歴史 初訂版」p.223

地理

歴史

公民

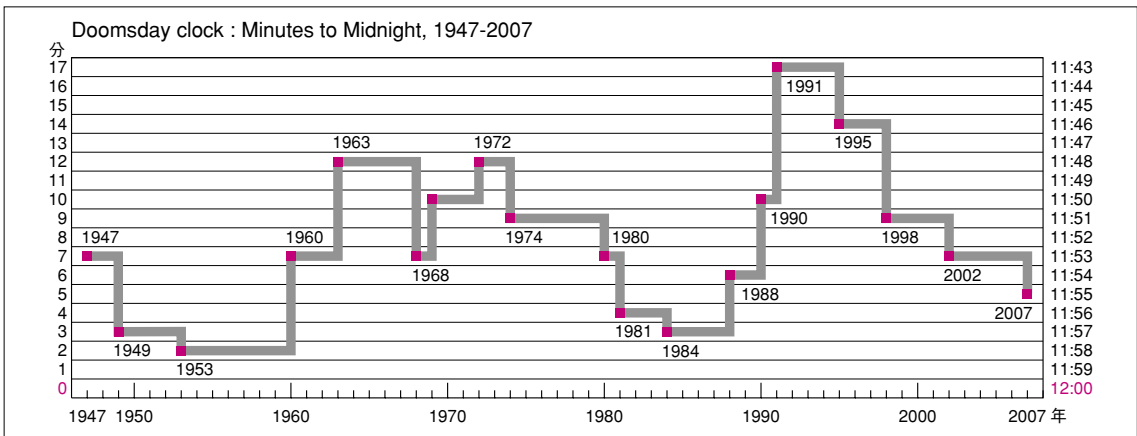
地図

社会科

ステップ 2

第五福竜丸事件の背景を考えよう

わが国への原爆投下から 2 年後の 1947 年にアメリカの科学誌「原子力科学者会報」の表紙に「世界終末時計」が掲載された。



▲世界終末時計

を因る学習が必要となる。

世界終末時計が最も 12:00 に近づいたのは 1953～1960 年（1952 年にアメリカ、1953 年にソ連が相次いで水爆実験に成功）。第五福竜丸事件はこの時期に起きている。生徒は「原爆で 2 回も大きな被害を受けているのに、この時期になぜ最悪の時刻になったのか」と素直に疑問を感じつつも、一方で「許せない気持ち」という憤りも感じていた。世界の覇権をとることの意味については「そんなに世界一になりたいのか」「日本も豊かな国になることをずっとめざしていたから、米ソのことはいえない」「人間って欲が大きいなあ」「今は何が豊かなのか決めるのはむずかしい」など、多様な意見がでた。冷戦の元にある「思惑」への気づきも見られるが、冷戦の概念化

一見 端折る しかし追究する現代史を！
～概念化のプロセス

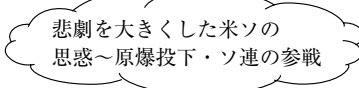
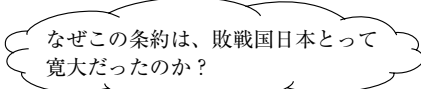
次ページの年表は「冷戦」の学習に関連する事象を経年ごとに並べたものである。教科書の p.222～225 の学習は戦後の国際状況とわが国の独立を中心に構成されている。個々の事象は関連をもちながらも、多くの内容を含むため、知識の羅列による平板な授業となるか、または、個々の事象の追究に多くの時間を要する授業となってしまふ。そこで、個々の事象の関連を生徒自身が追究する学習を構成しなければならない。冷戦を学ぶことは、個々の戦争や対立を学ぶ以上に、わが国の独立と戦後の方向性を学ぶことであるので、概念化

に際し課題追究型の授業としたいと考える。

<概念化の視点>

- ① 冷戦という国際関係の事象であるが、わが国の歴史事象を学習する中で追究する課題を設定する。
- ② 社会的事象を評価する為政者等の言葉の意味を考えることで歴史の評価を生徒が行う。
- ③ 現在の社会に通じる視点を設定する。

資料1 年表

1945	2月	ヤルタ会談 *ソ連対日参戦約束
	7月	ポツダム会談 *原爆実験成功
		
	8月6日	広島原爆投下
	8日	ソ連対日参戦
	9日	長崎原爆投下
	15日	終戦発表
	9月2日	降伏文書調印～GHQ支配
1947		マーシャルプラン発表
1949		中華人民共和国成立
1950		朝鮮戦争
		
1951		サンフランシスコ講和会議(平和条約) 日米安全保障条約→60年安保闘争
1953		米ソ水爆実験成功
1954		第五福竜丸被爆
1962		キューバ危機
1965		ベトナム戦争
1990		東西ドイツ統一
1991		ソ連解体
2001		9.11同時多発テロ
2009		オバマ大統領ノーベル平和賞受賞

<学習の流れ>

・日本の終戦に対するアメリカの思惑はどのように変化したでしょう？（視点①）

1945年2月 ヤルタ会談

左から チャーチル・ローズベルト・スターリン



日本への参戦を約束したソ連
「明解世界史図説エスカリエ」 p.170

2月から7月の間にアメリカ側ではどのように方針が変更したのだろうか？

1945年7月 ポツダム会談

左から アトリー・トルーマン・スターリン

ア 原爆の実験が成功したという報に接したトルーマンの思惑はどのように変化したと思うか？

生徒は「アメリカが戦争を終わらせることができる、と思った」「ソ連に知られたくない」などの意見を述べた。このような「かけひきの」な考えこそが冷戦の思想につながっていることを考えさせる。

このような状況の中で原爆投下、ソ連参戦の思惑をさぐらせない。

イ アメリカはなぜ原爆を投下したのか？ソ連はなぜ対日参戦をしたのか？

ヤルタ会談の内容から考えてみる。

ヤルタ会談 米の譲歩～ソ連への利権の譲渡
・モンゴルの現状維持（中国から分離）

- ・日露戦争で譲渡されたロシアの権利の回復
 - ・千島列島をソ連に引き渡す
- ヤルタ会談の時期と原爆実験成功の時期。

この時期の差に気づかせたい。

- ・吉田首相の思いを考えよう。(視点②)

1951 ・サンフランシスコ講和会議

ア 吉田首相の思いは？

公平寛大なる平和条約を
欣然と受諾いたします



ダレス米講和会議代表『和解と信頼の講和』
「中学生の歴史 初訂版」 p.224

イ アメリカが日本に寛大になったのはどうしてだろうか？

1946 当時米英中ソの四国による25年間の協同措置→懲罰的条約の予定

1947 連合国内の亀裂 (年表参照)
日本への対応の変更

アメリカは日本をどのような
国にしようとしたのだろうか

冷戦の意味づけ

それは、どうしてだろうか？
原因を述べ、その結果、起きた国際的な事件を説明しよう

朝鮮戦争 経過・結果・日本への影響

・冷戦は世界や日本にどのような影響をもたらしたか？ (視点③)

安保闘争

ベトナム戦争～ジャングルの戦い



左：「中学生の歴史 初訂版」 p.225
右：「最新世界史図説タペストリー」 p.254

2枚の写真から冷戦の結果をイメージ化する。詳細な内容にはふれず、55年体制をはじめ、国内にも思想対立が表面化することにもふれる。言語活動としてまとめのレポートの作成(論文形式)を実施する。冷戦の結果や影響については自学とする。

おわりに

現代史を生徒が学ぶとき、少しでも歴史的な「香り」を感じさせたいと思う。時代が近く、記録もあり、歴史的な想像をかき立てるといふより、論理的な思考と半ば公民的な分野への内容の移譲から、生徒にとっては、つまらない授業となりがちである。しかし、歴史学習の最後の章として、2年間の歴史的思考・技能の集大成となる授業としたい。「冷戦」は多くの民族対立を生み、現在なお解決していない問題もある。また、わが国の戦後の方向を決定したことも確かである。また、デタントを経て、ソ連の崩壊から今日の大国主義への疑問という課題に気づくためにも重要な単元である。今回のレポート(本稿)は、おもに内容構成に重点を置いて記述した。流れを大観し、重点化していくことは、教師の教材観にかかわる問題であると思うが、事実認識に終わることのないように今後も実践したい。